



2011年は、国際森林年です



森林の声

国際森林年とは

2006年の国連総会決議により、2011年は国際森林年とされています。国際森林年は世界中の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めることを目的とするもので、各国に対し積極的な取組や国内委員会の設置が要請されています。

テーマ 森を歩こう！ ～森林の自然に触れることが森林づくりの第一歩

北海道からのメッセージ

- 先人が植えてきた北海道の森林は、大きく育ち、私たちに豊かな恵みをもたらすまでになりました。
 - ・森林に貯えられた木材の量は、723百万m³で道民一人あたり131m³となり、木造住宅5軒分を立てられる量に相当
 - ・森林の1年間の貯水量は、240億トンで道民一人あたり4,347トンとなり、札幌ドーム2.8個分に相当
- 道では、豊かな森林を次の世代に引き継いでいくため、森林資源を循環して利用する取組みを進めており、私たちの暮らしの中にも、森林を取り込み、木材を利用することを定着させることが重要となっています。
- 2011国際森林年はこうした「新たな「森の暮らし」への扉」を開く大事な年になります。
- 各地域で開催される森林ウォーキングや植樹の集い、森林認証林の見学会などへ参加し、身近なところで、木材等を使っていく、そういう「新たな「森の暮らし」」をしてみませんか。

森を歩く

森とふれあう

森の恵みを活かす

森を感じる

発行

胆振総合振興局森林室
〒053-0803

苫小牧市矢代町3丁目1番18

TEL 0144-72-5121

FAX 0144-74-0754

hp

<http://www.iburi.pref.hokkai.do.lg.jp/ds/mdc/index>

★ 苫小牧市立美園小学校

林業を体験！

○ 日時：2月4日（金）9:30～11:30

○ 場所：北海道大学苫小牧研究林

・美園小学校5年生64名を対象に、冬の森林教室を行いました。

今年度最後の森林学習で、今回のテーマは冬の自然散策と林業体験です。

冬の自然散策では、この時期にしか見ることができない木の芽の観察や雪の上についた足跡などから、どんな野生動物がいるかを推測しながら散策しました。

また、林業体験では、めずらしい道具（^{りんじやく}輪尺やバーテックス）を使って木の太さと木の高さの測定や、ノコギリを使って枝打ち体験をしました。

冬の寒い日ではありましたが、寒さに負けず熱心に学習していました。



枝打ち体験

山火事に注意しましょう！

例年、冬から春にかけて、空気の乾燥や季節風あるいはフェーン現象などの気象条件等から、山火事発生危険性が高い時期となります。山火事は、いったん発生するとその消火は容易でなく、一瞬にして貴重な森林を焼失し、その回復には長い年月と多くの労力を要することとなります。平成22年に北海道で発生した山火事は、15件（胆振総合振興局管内は、2件）で、出火の原因は、その殆どが人為的な過失によるものです。これから暖かくなるにつれ、山に入る機会も多くなりますが、特に、空気が乾いている日や風が強い日には、たき火、火入れをしないなど、火の取り扱いには十分に注意してください。

山火事予防危険期間 4月1日～6月30日

幼稚園児がやってきた

○日時：3月11日（金）10:30～11:00

- ・聖ルカ幼稚園（苫小牧市）の園児19名が阿部園長とともに当森林室を訪れました。聖ルカ幼稚園は、北海道大学研究林をフィールドに“森のようちえん”を毎月1回（6月～11月 年6回）行っており、当森林室でもお手伝いをさせていただきました。今回は、今年卒園する園児が1年間のお礼をこめて来訪したもので、感謝の気持ちを手紙や絵にして豊田室長に手渡しました。



お礼の手紙

室長からは、これからも森に関心をもって“森のようちえん”で教えてもらったことを、家族のみんなに教えてあげてください。とのお話があり、木のねんどでつくったペンダントを記念に贈呈しました。

子どもたちは、思いがけないプレゼントに顔をほころばせていました。



木のねんどのペンダント

「ボランティア活動による森林づくり協定」を締結しました

～胆振森林サポーターの会（苫小牧市）～

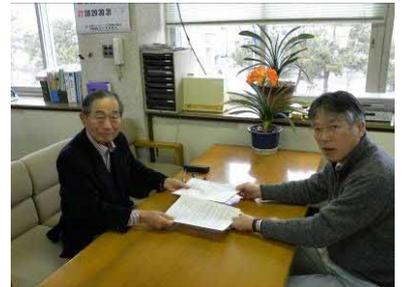
○日時：3月15日（火）13:30～15:00

- ・胆振森林サポーターの会の幹事会が当森林室会議室で行われ、来年度の事業計画について話し合われました。

胆振森林サポーターの会（会員24名）は、主に道有林をフィールドに当森林室と連携を図りながら活動をしている団体で、来年度は、今までの活動に加え新たなフィールドでの活動（安平町字追分旭地区）が提案され、幹事会で承認されました。

幹事会終了後、サポーターの会の坂本会長と豊田室長との間で「ボランティア活動による森林づくり」の協定が締結され、除伐を中心とした森林整備を行っていただくことになりました。

現地には、カラマツ、ハルニレ、カツラなどいろいろな樹種が植栽されており、今後どのような森林に誘導していくかなど、研修会を重ねながら作業を行っていく予定です。



協定締結

ちょっと気になる木のお話し

○エゾヤマザクラ○

北海道のサクラは、南部を除くと、ほとんど山のサクラであり、その主体は、花が大きく、色も艶やかなエゾヤマザクラ（ベニヤマザクラ、オオヤマザクラ）である。日本列島を見渡すと、山のサクラは三つのグループに分かれる。まず、本州中部から西がヤマザクラ。これに対し、北海道を中心にカラフトの西海岸まで、さらに本州中部と東北地方の山岳地帯に分布しているのがエゾヤマザクラ。三つ目が、ヤマザクラとエゾヤマザクラの中間地帯に分布し、両種の中間のような形をしたカスミザクラである。

さて、山のサクラは材としての利用価値も高い。ねばりがあって強いので、数えきれないほど多くのものがこの木で作られている。古くから織機を作ったが、高級建築の敷居、廊下から小さいものでは印材、版材まで、サクラは珍重された。北海道では昔は家の中で一番大切な切戸のふちに使った。毎日よく手入れをして、光沢を自慢しあったそうだ。だが、サクラの木は数量が少ない上、用材になる木も多くないため、現代ではサクラの代りにカンパ類の材が使われている。カンパ材の利用はサクラの代用品としてスタートしている。ただし参考までにつけ加えると、秋田県名産のカンパ細工はサクラ細工のことである。



（北方樹木園から引用）

北海道環境宣言 知事メッセージ



一本の木が豊かな森になるように、
一人の行動が北海道の未来を育みます



～道民一人30本植樹運動を実践します～